

名 称	周南市体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒745-0698 山口県周南市大字呼坂2-2
連 絡 先	TEL : 0833-92-0254                      FAX : 0833-92-0253

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口 周南市 154,725人（平成19年11月1日現在）

周南市は、山口県の東南部に位置し、平成15年4月に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して生まれた新しい市である。北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を望み、その海岸線に沿って大規模工業が立地し、それに接して東西に比較的幅の狭い市街地が続いている。北側には、なだらかな丘陵地が広がり、その背後の広大な山稜には農山村地帯が散在している。また、島しょ部は、瀬戸内海国立公園区域にも指定されており、美しい自然景観を有している。

本市は、子どもたちの笑い声が響き、若者が生き生きと学び、遊び、働き、そして、高齢者が安心して暮らすことのできる「市民本位の地域社会」を創造し、子どもから高齢者まで、一人一人が様々なライフステージで輝きを放ち、内外に向けて、“元気”を発信できる都市の創造を目指している。

## 事業の名称、活動概要

名称 周南市体験活動ボランティア活動支援センター運営事業

人間性豊かな青少年の育成、地域で子どもを育てる環境づくりを目的として、市では平成15年度より「周南市体験活動ボランティア活動支援センター」を設置している。

支援センターは、青少年のボランティア活動のコーディネートや広報誌による青少年のボランティア活動の紹介や募集情報を発信しながら、中高生が積極的にボランティア活動にかかわっていけるよう、学校・地域と連携した支援体制の整備に努めている。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

核家族化・少子化等により、地域の連帯感が薄れ、地域社会における人間関係の希薄化が進んでいる現在、いじめ、暴力行為、引きこもりなど青少年をめぐる深刻な問題が生じており、子どもたちの社会性の不足や精神面での未発達などが懸念されている。

青少年に社会の一員としての規範意識や他人を思いやる心など、豊かな人間性を育ていくためには、社会奉仕体験活動、自然体験活動など様々な体験を積み重ね、社会のルールを知り、自ら考え行動する力を身に付けていくことができる環境を整備する必要がある。「学ぶこと」と「働くこと」を関係付けながら、子どもたちに「生きること」の尊さを実感させ、社会的自立に向けた教育が重要視されている。また、地域の中で子どもたちが社会性を身に付けることにより、他人を理解し、共感できる力を伸ばすことが大切であり、そのためにも地域が子どもと積極的に関わる必要性が叫ばれている。

このため、市では「体験活動ボランティア活動支援センター」を設置し、ボランティア活動の情報提供及び活動機会の充実を図っている。青少年が地域で活動する機会を増やすことで社会参加が促進され、それに伴って学校と地域が連携し、地域全体の教育力が向上していくことを目指している。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

本市では支援センターを生涯学習課と各総合出張所に設置（計4カ所）し、合併前の旧2市2町における地域の特色を生かした取り組みを継承しながら、青少年に対するより機能的な支援のあり方を模索している。その一つに、ボランティアバンクへの登録制度があげられる。

これは、①地域の中高生にボランティアバンクへの登録を呼び掛ける。②支援センターに寄せられたボランティア情報を登録者に発信する。③中高生が活動を選択し、支援センターに連絡する。④活動依頼者へボランティア参加者を連絡する。という流れで支援センターがボランティア活動をコーディネートしている取組である。

支援センターは、広報誌をもとに地域に対してボランティア情報の提供を依頼し、地域や青少年からの活動依頼や相談を受けて、学校（特にボランティア担当教員）と連絡を取り合っている。学校と連携することにより、充実した情報提供と活動の調整を行っている。

### ② 活動の展開内容（活動段階）

支援センターは、学校や関係機関、社会教育関係団体等と連携し、青少年のボランティア活動のコーディネート及び広報誌（年1回）による啓発活動・ボランティア募集を行っ

ている。

これまでの活動概要は次のとおり。

#### ○イベントボランティア

##### 【夏祭り、秋祭りボランティア】

地域の祭には、多数の青少年ボランティアが参加している。実行委員会からの要請に基づき、支援センターや公民館が中高生のボランティア参加を募った。小学生は、クリーンスタッフとしてゴミの分別収集を呼び掛け、中高生は、準備、バザーや抽選会の補助、後始末と意欲的に活動した。地域の大人や祭への参加者と交流を深め、楽しみながら参加するとともに、準備や後片付けを通して陰で祭を支えている人々の苦労を実感することができた。

##### 【イベントボランティア】

健康祭や地域の運動会、スポーツイベントにも多数の中高生ボランティアが活躍した。事前に打ち合わせをすることで、中高生ボランティアも参加する意義や仕事の内容を十分把握し、任された仕事も責任を持って行うことができた。熱心な活動ぶりと親切な対応に参加者から好評を得た。

##### 【敬老会ボランティア】

社会福祉協議会と連携した取組で、準備、受付、会場への誘導、後始末と地元の中高生の積極的な活動ぶりを称え、参加者からは感謝の言葉を多数いただいている。敬老会への中高生ボランティアの参加者は、年々増加してきている。

##### 【体験教室ボランティア】

夏季休業中の環境学習や工作教室、体験学習に、多数の中高生ボランティアが参加した。環境学習では、グループリーダーとなって水生生物の調査に取り組み、昼食のバーベキューの準備や後片付けにも積極的に活動した。

年が近いということもあり小学生から慕われ楽しく活動することができたが、ものの作り方やグループ活動における指導の難しさも実感した。

#### ○福祉ボランティア

##### 【児童クラブボランティア】

夏季休業中に、小学校の児童クラブに参加し、宿題を見たり、本の読み聞かせや鬼ごっこをしたりして子どもたちと楽しく過ごした。低学年の児童との触れ合いを通して、指導員の方々の苦労や人との接し方や指導の難しさを学ぶことができた。

##### 【体験教室ボランティア】

社会福祉協議会と連携した取組で、障害をもつ子の体験教室では、身近な材料を活用した工作やお菓子作りに取り組んだ。中高生ボランティアは参加者や保護者との交流を深めることができ、中には保護者の絶大な信頼を受け、体操教室へ参加するように依頼される生徒もいた。また、この活動をきっかけに福祉への関心が高まり進学や就職を希望する生徒もいた。

##### 【子育てサロンボランティア】

子育てサロンでは、紙芝居やエプロンシアターが幼児に喜ばれていた。事前の打ち

合わせ、練習した努力が実り、参加者の好評を得た。

○環境整備ボランティア

クリーン作戦や河川の環境整備、植林作業などでは多数の中高生ボランティアが、地域の大人と一緒に汗を流した。

○ボランティアニュースの配布（年1回 12月発行）

市内の中高生全生徒（約8,800人）を対象に、ボランティアニュースを発行した。広報誌には市内青少年ボランティアの活動事例や支援センターの紹介、市のイベントへのボランティア募集などを掲載した。ニュースを読んだ青少年からは、成人式のボランティアスタッフ希望の問い合わせや年末のイベントボランティアを募る相談が寄せられている。

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

広報誌は、公民館や公共機関に配布することで、より多くの青少年ボランティアのニーズを把握できるようにしている。

学校とは、窓口となっているボランティア担当教員との連携を密にし、センターからの依頼やボランティア参加者への細かな連絡等を行っている。全校生徒やボランティア参加者が対象のボランティア講座を実施し、ボランティア活動の意義や心構えをより多くの中高生に伝えていけるようにも努めている。その他にもイベント企画の実行委員会が学校に出向いて参加生徒との打合せ、また地域の大人と中高生とが一堂に会する打合せの場を設定することで、互いの交流が深まり、諸活動が円滑に進むよう配慮している。

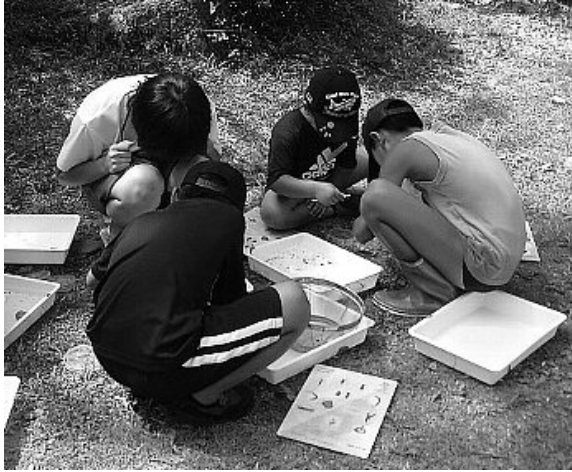
公民館は、事業運営に関する情報を共有することで、支援センターの機能を発揮し、環境整備やイベントボランティア等中高生ボランティアの活動をコーディネートする事例が増加しており、公民館からの地域や学校への積極的な働きかけが見られるようになってきている。



【夏祭りの準備】



【健康祭でのスポーツイベント】



【環境学習でのグループリーダー】



【敬老会での会場案内】

## 事業の成果と今後の課題

「勉強になった」「また参加したい」など支援センターには多数の感想が寄せられ、ボランティア活動を通して、参加者自身が成長していることや今後の活動に向けての意欲が感じられた。その中でも、繰り返してボランティア活動に参加する生徒、福祉関係への進路を希望したりする生徒など、ボランティア活動が参加者に好影響を与えていると思われる。

ボランティア登録制は一部の地域での取り組みであるが、今後市内全域に展開していくことを視野に入れている。実態としては、現在市内には9,000人近い中高生が在籍しており、4つの支援センターだけでは、十分なコーディネートができていく状況にある。

それでも、学校と地域が密接に結びついて、ボランティア活動が盛んに行われている地域もある。また、公民館が支援センターと同様の機能を発揮して、地元の中中学生を対象にしたボランティア登録制を実施したり、公民館が学校と地域のパイプ役となって、イベントや清掃作業におけるボランティア活動をコーディネートする活動が成果を挙げている。センターとしても青少年ボランティア支援の輪は徐々にではあるが広がりつつあると認識している。支援の形式にこだわることではなく、地域性を生かした取組を継続・発展させていきたい。

また、事前の打ち合わせや依頼者の研修など、より意図的・教育的に地域の大人が青少年にかかわっていくような地域版キャリア教育の実施も考慮しながら、取り組んでいきたい。

執筆者職・氏名：周南市教育委員会熊毛総合出張所

派遣社会教育主事 兼重 彰洋

コーディネーターからの一言コメント

市の方針として青少年の体験活動ボランティア活動を推進しようとする意気込みが感じられる。公民館や学校と連携を深めボランティア登録制度の導入や活動の場を提供し、異世代との交流を意図的に行われる事業の組み立てにも注目したい。

(木村 清一)